

ブラ土木 in 日立 (平成30年11月16日)

田切美智雄先生

- ・茨城大学名誉教授 (理学部)
- ・日立市郷土博物館特別専門員
- ・先生は、2008年、日立市小木津町の東連津川にある地層が、日本最古となる約5億6000万年前の古生代カンブリア紀の地層であることを発見した。これにより、日本列島誕生のルーツを知る手掛かりになっている。

見学会開催趣旨

昨今、大規模地震や巨大台風等による法面崩壊や地盤の液状化、土石流災害などの地形や地質に起因する災害が多く発生しています。これらに対する防災上の検討や適切な土木構造物の建設や維持管理、安全なまちづくりを進めるためには、その地域の環境条件に加え地形・地質や地史的背景を知ることが重要です。

茨城県北地域は、日本最古のカンブリア紀の地層や日本列島形成時に造られた棚倉構造線 (大規模断層帯) などが存在し、特色のある地形・地質から構成されており、日本ジオパークにも指定されたことがあります。

この日本最古の地層は、本日の講師を快く引き受けて頂いた田切先生の熱心な研究により発見されたものであります。

そこで、土木学会茨城会では、本日、見学会を開催し、田切先生のご案内で現地の地形や地質の露頭を見学するとともに、その地形・地質の特性や形成過程、さらに日本列島の地質構造における当地域の特色などについて講義を頂く予定です。

これらを通じ、土木技術者として、今後事業を進めるに当たり、地域の地形や地質を診る視点を養い、安全なまちづくりや土木施設の建設、維持管理に繋げて行きたいと思っております。

